

土木遺産の観光活用のとりのくみ（その2）

山浦 直人¹・小西 純一²・熊谷 圭介³・有賀 良夫⁴・小野 和行⁵・宮澤 洋介⁶

¹正会員 土木・環境しなの技術支援センター（〒388-8011 長野県長野市篠ノ井布施五明 341-7）

E-mail: yama3417@mx2.avis.ne.jp

²正会員 信州大学名誉教授（〒380-0954 長野県長野市安茂里 8515-6）

E-mail: junkonis@mx1.avis.ne.jp

³正会員 長野大学環境ツーリズム学部教授（〒386-1298 上田市下之郷 658-1）

E-mail: kumagai@nagano.ac.jp

⁴会員 （株）みすず総合コンサルタント（〒386-1102 上田市上田原 1073-4）

E-mail: arugae@ybb.ne.jp

⁵非会員 日本総合建設（株）（〒390-0851 松本市島内 5037-1）

E-mail: k-ono@nihonsougou.co.jp

⁶会員 北陽建設（株）（〒398-0003 大町市社 5377）

E-mail: y.miyazawa@hokuyo-net.co.jp

土木遺産をより広く知ってもらうことは、土木遺産そのものの価値をよりひろげると共に、土木が担う社会基盤整備事業への理解促進に通じる。著者等が属する土木・環境しなの技術支援センターでは、長野県内に点在する土木遺産を普及、活用を目指した取り組みを継続している。本報告では、その取り組みのために作成している「魅力のマップ信州の土木」の継続発行と普及のための展示イベント（長野駅、松本駅での実施）と一般市民を対象とした「土木遺産ツアー」の概要や参加者のアンケート結果などを発表する。ツアー参加者の土木遺産に対する市民の反応は「知らなかった」「普段じっくり見ることがない」という声があり、ツアーなどの効果が得られている一方では土木に関わる側の今迄の発信力の弱さになっている課題といえる。この取り組みは長野県という限られた範囲であるが、土木の姿や土木技術の伝統、現有の土木施設の役割などを広く発信していく面で今後の参考になればと考え、事例報告をする。

Key Words: 土木遺産、観光資源化、土木の発信

1. はじめに

本発表は、平成 28 年度の発表に続き、長野県内で取り組んだ土木遺産を中心にした土木施設の地域への発信、観光資源化に関する取り組みについての報告である。

（1）取り組みの契機

長野県内の研究者、技術者によって構成している自主的組織、土木・環境しなの技術支援センター（以下「当センター」）というでは、土木の観光資源化について次の取り組みを行っている。

- ・パンフレット「信州の土木 魅力のマップ」（以下、「魅力マップ」という）の発行
- ・土木遺産などの活用を広げるためのシンポジウムや展示などのイベントの開催
- ・マップに掲載した土木遺産などを訪ねるツアーの実現

（2）今までの取り組み

- ①「魅力のマップ 信州の土木」の継続発行、普及
 - ・第3版まで発刊し、発行部数は合計で3万部
 - ・配布場所 国県の機関の窓口などに加え、主に県庁及び県の東京、大阪などの観光案内所他イベントでの自主配布

②シンポジウムの開催

土木遺産、土木施設を地域資産、観光資産として活用をめざすため、観光関係者、土木関係者などに呼びかけ、シンポジウムの開催を行った。

内容は、講演「土木観光への期待」などと事例発表として「砂防ダムツアーのとりのくみ」などである。県内では初めての取り組みであり、参加者は170名に達し、関心が高いことが分かった。

表1 平成28年 近代化遺産めぐりの概要

開催月	テーマ	見学の主な土木遺産			魅力アップのための 追加見学箇所
4月	鉄の道・・・信州への難所	碓氷峠眼鏡橋	碓氷峠道路開削の碑	碓氷峠道路開削の碑	鉄道文化村
5月	治水と利水一新緑の安曇野	牛伏川階段工（歩いて見学）	拾ヶ堰（世界かんがい遺産）	矢原堰（安曇野市）	長峰から3川合流の眺望
6月	絹の道ー中央山地をこえたシルクロード	りんどう橋（土木学会論文デザイン賞）	和田峠道路開鑿跡	水道タンク（蚕糸業遺産）	岡谷蚕糸博物館
7月	治水と利水ー天竜川の恩恵	西天竜円筒分水工群	釜口水門	三峰川かすみ堤防	寒天レストラン
9月	木曾谷の開発史ー電力王の足跡	読書発電所	桃介橋と柿其水路橋	森林鉄道鬼淵橋	妻籠宿見学
10月	佐久甲州街道に沿ってー小海線に沿って	龍岡城五稜郭	RC ローゼ桁栄橋	中津橋	八ヶ岳大崩壊のせき止め地（松原湖周辺）

2. 土木遺産を訪ねるツアーの実施について

(1) 魅力のマップ「信州の土木」の概要

魅力マップはA1サイズ、12折り、両面カラーで、片面が県内の各地域にある土木遺産、土木建造物などの案内地図で、片面が砂防、治水、橋、鉄道、道路、上水道、公園、農業水利施設など10分野の代表的な遺産や施設を紹介している。案内地図面には、遺産や施設の位置と掲載した施設の一覧リストがある。例えば、橋梁遺産、発電所遺産、農業水利遺産、水道遺産などであるが、「長野県の一里塚」や「ダムため池（目的とダム形式分類付き）」「浄化のしくみを学べる下水処理場」で、他では入手できない情報も加えられている。

初版発行後に確認された訂正と事業の進捗により紹介する現場の変化に対応して改訂をおこない、平成28年度で第3版の発行となった。

(2) ツアーの実現

魅力マップで土木遺産の紹介をすると、そこを訪ねたいという要望が寄せられた。土木遺産等を観光資源化できるかという課題にも答えていくためにもツアーの実現は不可欠であった。

しかし、当センターがツアーを企画実施していくには、法的な制約がある。旅行業の許可が必要という点である。

その課題は、長野市内のカルチャーセンターから、現地講座「近代化遺産めぐり」の提案により、道が開かれ、ツアーの実現に至った。

ツアーの実施責任は、主催者であるカルチャーセンターが負い、当センターはその企画内容について相談を受け、さらにはツアーの案内講師依頼を受諾する形とした。なお、案内講師は有料で行うこととした。

（ツアーの実施は毎月第3木曜である。）

(3) 平成28年度のツアー

ツアーの募集開始時点から6回の企画としたため、参加者は連続参加が優先されたが、定員19名は実施前に満員となり、各回ともほぼ定員人数での開催となった。

- 各コースとも当センターの案内者は2名を配置した。
- また、コースづくりで配慮した点は次のとおりである。
- ・各コースにテーマを持たせて魅力づくりを図った。
- ・長野市からみると木曾や伊那谷方面は往復の時間を要するため、日の長い時期に実施することとした。
- ・見学先は単調にならないよう変化をもたせ選定した。
- ・遺産の案内に地域の歴史などを加味できるようにした。
- ・休憩場所などの選定にも配慮した。
- ・発電所では、管理者に案内を依頼した。

各回とも天候に恵まれ、ほぼ企画通りの見学が実施出来た。（写真1～写真4）

(4) 参加者アンケートの分析

参加者にアンケートを依頼し、19名から回答を得て、その結果をとりまとめた。

- ①性別は 男10名 女9名とほぼ半々であった。
- ②年齢層はシニア世代がほとんどであった。
50代1名 60代5名 70代8名
- ③ツアーへの参加回数（全6回中）
・4回参加4名 ・5回参加7名 ・6回参加8名
- ④土木遺産への認知度
・事前に土木遺産に興味を持っていた5名
・事前には知らなかった14名
と事前に土木遺産を知っている参加者は少なかった。
- ⑤ツアーへの満足度
・全員が興味深い内容だったとの答えがあり、9割が次年度も継続して参加希望するとの回答だった。

- ・6 コースの内、テーマ関心度が高いとの答えは、治水利水 12 名、木曽谷 10 名であった。

⑥案内活動に対する評価

- ・企画、説明などへの満足度は 各コースとも 6 割から 8 割の回答を得た。
- ・改善を求められた点としては、
「資料不足の箇所があったこと」
「予定した橋を時間の関係で通過したが、予定通り歩いて渡河しなかった」との感想が複数あった。
「道の駅など地域の特産がある場所への立ち寄りを配慮して欲しい」
「初めての場所など魅力あるコースづくりを」

3. 土木遺産の価値をPRする展示イベントの実施

市民を対象にした PR が不可欠であるため、展示イベントに取り組んだ。

魅力マップにとりあげた土木遺産、ダムや橋、農業水利施設などの認知度が決して高いわけではなく、それらを広めていくことは 観光活用には欠かせない。

そこで、今回初めての取り組みとして、駅という公共スペースでのパネル展示という試みに取り組んだ。

①会場と実施時期

- ・松本駅自由通路 平成 28 年 11 月 18 日～25 日 8 日間
- ・長野駅 MIDORI りんごの広場
平成 29 年 2 月 17 日～24 日 8 日間

(図 1 は、展示イベントの案内資料)

② イベント内容

- ・パネル展示
土木遺産等のパネル 約 60 枚
長野会場ではプロジェクターにより橋の動画（ドローン撮影）を放映した。
- ・説明及び特別イベント
当センターのメンバーを配置し、土日を中心に展示説明やクイズイベントなどを行った。
(写真 5 は松本会場、写真 6 は長野会場の様子)

③イベントの参加者

公共用通路などでの実施のため、参加者数の把握は出来なかったが、パンフレット（魅力のマップ）を 2 つの会場とも 800～900 部配布できた。

参加者との対話の中では、

- ・年令を問わず、パネル展示への関心があった。
- ・地域にある身近な遺産への関心があった。
- ・ダムカードへの注目度が高かった。
- ・動画での遺産の紹介に関心がよせられた。
- ・報道にも取り上げられたため、特定の遺産について関心をもって出掛けて来た人がいた。

- ・建設機械ラジコン模型の操作体験（国交省千曲川河川事務所協力）は子供に人気で、保護者が展示に足をとめる契機となった。

公共通路などを通過する市民むけの展示であったため、市民にさらに関心をもってもらえる展示企画・内容など、改善、工夫すべき課題も残された。

4. まとめ

魅力のマップの発行や展示イベントの実施にあたっては、国や県の協力を得て実施した。

展示イベントでは、長野県建設部が独自に選定してまとめた県内の土木施設「土木のお宝」のパネルをふくめた展示とした。長野県農政部でも、農業土木遺産などを対象にしたパンフレット「長野県の農業遺産」を平成 28 年度に発刊、長野県建設業協会では特別広報誌「LIFE」を発刊し、土木遺産も取り上げられている。

このように長野県内の土木遺産や土木施設の PR 発信が様々なかたちで広がってきており、当センターの活動は、その一翼として役割を果たしていると思われる。

今後の課題としては、

- ・要望が多いマップのネットサイトでの公開
- ・土木遺産のツアーの継続 である。

土木遺産の観光資源化は、容易に実現できるテーマではないが、現時点では継続していくことで、土木遺産の価値の普及、土木の役割への関心などを少しずつ広げていくことにつながると考える。

参考文献

- 1) 山浦 直人・小西 純一・古本 吉倫・赤井 静夫：
「土木遺産の観光のとりくみ」土木学会第 36 回土木史研究発表会発表（平成 28 年 6 月）
- 2) 土木・環境しなの技術支援センターのホームページ
<http://www.ne.jp/asahi/tac/shinano/>
- 3) 土木・環境しなの技術支援センター：パンフレット
「信州の土木 魅力のマップ」（サイズ A1 版、折りして 297×140mm）両面カラー、初版平成 27 年 3 月、第 2 版平成 27 年 9 月、第 3 版平成 29 年 3 月
- 4) 土木・環境しなの技術支援センター：「土木観光を考えるシンポジウム 信州の土木を訪ねよう」（シンポジウム当日配布資料）、平成 28 年 2 月
- 5) 山浦直人・小西純一：「信州の土木を発信しますー魅力ある土木の発信、現場授業の取組みー」土木学会誌 2015 年 12 月号
- 6) 土木・環境しなの技術支援センター：「土木遺産保存活用事業報告書」、平成 26 年 3 月
- 7) 土木・環境しなの技術支援センター：「歴史的砂防施設、河川施設調査事業」、平成 28 年度 川づくり団体全国事例発表会発表資料（平成 29 年 2 月）



写真1 ツアー 碓氷峠（長野群馬県境）



写真3 ツアー ハケ岳崩壊によりできた松原湖（小海町）



写真2 ツアー 牛伏川階段工（松本市）1



写真4 ツアー りんどう橋（上田市）

パネル展示 土木は面白い
ド ボク
信州の土木を発見しよう！
日時：平成29年2月17日（金）から 2月24日（金）まで
11:00 13:00
SHINSHU no DOBOKU
信州の土木
魅力のマップ
—土木遺産・最新の現場・知りたい土木—
展示は上記期間中
10時より 20時まで ご自由にご覧いただけます。
下記の期間は、説明者が現地にいます。
質問にもお答えし、クイズなどのイベントを行います。
2月17日（金）11時から16時
2月18日（土）10時から16時
2月19日（日）10時から16時
えうご期待！
「信濃の橋」の
ドローン映像を
連続放映
信州の土木が満載のパネルをお配りします。
県内のダムや歴史的な橋などの遺産の所在地、リストがのっています。
☆主催：土木・環境しなの技術支援センター
ホームページは で検索
本イベントは、関東地域づくり協会・北陸地域づくり協会の助成を受けています。

図1 展示イベントの案内（長野駅）



写真5 展示イベントの状況（松本駅）



写真6 展示イベントの状況（長野駅）